

追手門学院大学

『英語文化学会論集』第28号 抜刷

2019年3月20日 発行

追手門学院大学国際教養学科の
初年次生を対象とした英語学習実態調査
— 新カリキュラムの評価を目的として —

松 宮 新 吾

追手門学院大学国際教養学科の初年次生を対象とした 英語学習実態調査

— 新カリキュラムの評価を目的として —

A Survey on the Actual Situation of English Language Learning of the First Year Students
of the Department of International Liberal Arts in Otomon Gakuin University
— For the Purpose of Evaluation of the Newly Implemented Curriculum —

松 宮 新 吾

要 旨

本研究では、国際教養学科で新カリキュラムを導入した2017年度入学生を対象に、新たな枠組みと内容でスタートした英語関連科目に対するカリキュラム評価とカリキュラム改善を目的に、「英語学習実態調査」を実施し、学習者要因に関わる因子を抽出し、英語運用能力の指標となるTOEIC® (ITP) のテストスコアとの因果関係を調べた。その結果、学習者要因に関わる因子と授業科目特性に対する親和性を示す有意な因子解を抽出することができた。また、抽出した因子の下位尺度得点とTOEIC®との因果関係を検証したところ、英語運用に関する有能因子や授業外学習因子がテストスコアと有意なプラスの因果関係を有していることが判明した。一方、新カリキュラムで位置づけられている英語コア科目に対する親和性を示す因子は、テストスコアに対し有意なマイナスの因果関係が存在することが分かった。

このことから、本研究では、国際教養学科の新カリキュラムに位置づけられている英語コア科目群に関わるカリキュラム評価を行うとともに、カリキュラム改善へ向けてなすべきことについての提言を行っている。

キーワード：英語学習実態調査、学習者要因、カリキュラム評価、カリキュラム改善

1. はじめに

追手門学院大学国際教養学部国際教養学科では、2017年度入学生から新カリキュラムが導入されている。その核となるコア科目として1年次に実施されるReading 1・2、Writing 1・2とEnglish for Qualification 1・2、English for Conversation 1・2の各クラスは、入学時のTOEIC Bridgeのテストスコアにより習熟度別クラス編成が行われ、1クラス20名程度の少人数クラスの授業が展開されてきた。特に、English for Conversationクラスは、全クラスがネイティブ教員によるオール・イングリッシュの実践的英語運用のための授業として、また、English for Qualification

クラスは、日本人教員による語彙力養成や文法基礎力の定着を目的としたTOEIC対策講座として実施されてきた。

本研究においては、2017年度から導入された新カリキュラム実施に伴うカリキュラム評価と、2017年度の「特色ある研究奨励費制度」により採択された研究課題「追手門学院大学生を対象としたベーシック・イングリッシュによる英語運用能力を飛躍的に高めるための初年次統一英語教育カリキュラムの研究開発－追手門学院大学英語教育スタンダードの構築」（2017－2018年度）に関わる調査研究の一環として、新カリキュラム実施初年次となる2017年度に入学した国際教養学科生150名を対象に英語学習実態調査を実施した。

2. 現状と課題

追手門学院大学国際教養学科の4年間の大学教育の基盤を形成する初年次教育における英語関連科目は、学科のカリキュラムポリシーやディプロマポリシーの実現をはじめ、キャリア形成へ向けてのスプリングボードとなることが期待されている。

また、学部横断的に基盤教育機構が2019年度からの実施を予定している初年次基礎英語教育（General Reading及びOral English）へ向けての基礎データを得ることは今後のカリキュラム開発や授業指導等において重要な示唆を得ることができるものと考ええる。

特に、中学校や高等学校での英語の学習内容や英語運用に関わる四技能をはじめとしたスキルが十分に定着していない学生に対する適正処遇の在り方を検討することは、本学の共通基礎英語教育をデザインする上で、喫緊の課題となる。石橋ら（2014）は、英語を専攻している日本人大学生を対象に、授業外学習の内容とTOEICスコアによる言語習熟度との関係を調査し、言語習熟度高群と低群との特性を明らかにしている。本学においても、BYOD（Bring Your Own Device）の全面導入を目前に控え、授業外学習の推進と定着や習慣化を図ることは重要な教育課題である。

3. 研究の目的

本研究では、

- (1) 大学初年次生の英語学習の実態を、外国語学習者特性の枠組みを用いて明らかにすることがその主たる目的である。

さらに、

- (2) 特定することができた学習者特性を分析することにより、2017年度から全面实施している国際教養学科の新カリキュラムの評価を行うとともに、
- (3) 2019年度から開始される全学共通の基礎英語教育のカリキュラム開発について示唆を得ることを目的として、調査研究を行う。

4. 研究の方法

本研究では、松宮（2008）が、大阪府立高校で文部科学省からスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールの指定を受けた高等学校を対象に実施した学習因子の形成と変容に関する研究の枠組みを参考に、新カリキュラムで学んでいる追手門学院大学の国際教養学科の初年次生を対象とした質問紙（英語学習実態調査票）を作成した。質問紙の作成に際しては、表1に示すように、第二言語習得において外国語学習の成功を左右する最も重要な要因の一つである学習者要因（情意要因）を特定するための枠組みを設定し、質問項目を配列した（資料1を参照）。

作成した質問紙（資料1）は、外国語の教授・学習における交互作用を検証したり、形成される学習因子を探索したりすることを目的に、学生の英語学習や学習者要因に関する情報を収集し、因子分析や重回帰分析等の多変量解析を行うことを前提としたものであり、分析の対象となる各質問項目の回答は5段階の多項選択形式（5段階評定尺度）によるプリコード法を用いた。英語学習実態調査は、以下の要領で実施した。

表1：第二言語習得における学習者要因

学習者要因	概要
(1) 年齢(age)	認知的、情意的、社会的要因
(2) 適性/aptitude)	音の記憶、音の記号化、文法的感覚、機械的記憶、帰納的推論等
(3) 性格(personality)	内向性、外向性、自己防御をはじめとする自己概念等
(4) 学習戦略(learning strategies)	学習経験に基づく学習の内的過程における認知戦略をはじめとする自己制御機能等
(5) 動機(motives)	内発的動機、外発的動機、動機傾向(達成動機、パワー動機、親和動機、回避動機)等
(6) 態度(attitudes)	外国語学習の態度目標(意識化、寛容、価値付け、概念化、統合化)等

(1) 調査対象

追手門学院大学国際教養学科1年生146名（男子83名、女子63名）

(2) 実施時期

2017年12月～2018年1月

(3) 実施方法

コア必修科目として位置づけているReading2（秋学期）の授業で、専任の授業担当教員が質問紙を配布し、英語学習実態調査実施の趣旨や注意事項を口頭で説明し、授業時間内の最後20分を用いて質問紙調査を実施した。質問紙への回答は、直接質問紙の回答用スケールに記入を求めた。

質問紙は調査終了後、担当教員が回収し、研究者に手渡された。

(4) 分析の方法

本研究が対象とする領域は、第二外国語習得に関わる教授・学習、学習者特性という多数の要因が複雑に絡み合いながら、また、学習経験や時間の経過とともにその都度変容しながら形成される複雑系の世界である。そこで本研究の分析においては、複数の変数間の関係性から学習者要因を追究するために、より単純な構造を明らかにする。そのために、研究の対象である学習者要因を、一定のモデルに当てはめたり、データを要約したり単純化したりすることができる多変量解析の手法を採用することとした。

そこで本研究の分析では、収集したデータの相関に基づくモデル構築（因子分析）や、学習者要因と英語学習成績との因果関係を明確にするために、英語学習成績として外部指標であるTOEICのテストスコアと、内部指標であるGPAスコアをはじめとする成績データを用いて重回帰分析を行うこととした。

5. 結果と考察

(1) 英語学習実態調査に基づく探索的な学習者モデルの構築

英語学習実態調査により収集したデータを精査し、因子分析を行った。因子分析に際し、分析手法の適切性を確認するためにKMOおよびBartlettの検定を行った。その結果、因子分析の対象とするデータのKMOは、.736（Bartlettの球面性検定は1%水準で有意）を示し、因子分析を行うことの適切さが確認された。

そこで、因子分析の対象となるデータ群を項目分析にかけ、天井効果やフロア効果等を含む除外項目を特定した上で、最尤法による因子抽出を試みた。その結果、図1に示すスクリープロットから、9因子解の抽出が可能であると判断し、Kaiserの正規化を伴うプロマックス回転による因子抽出を行った。因子抽出に際しては、因子負荷量が.3以下の低い項目を除外しながら、因子の収束を試みた。これにより、表1-1、1-2、1-3、1-4に示すとおり、9つの因子解を特定することができた。なお、特定した9つの因子解による累積因子寄与率は、53.75%と満足できる説明率を示していることが確認できた。

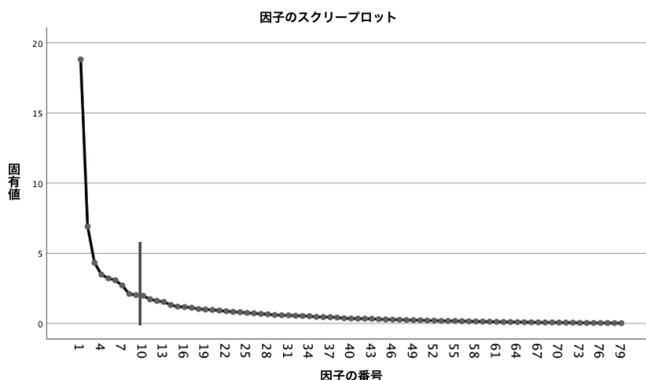


図1：最尤法による因子抽出

表 1 - 1 : 因子分析結果(1)

No.	質問項目	I	II	III	IV	V
19	英単語に自信がある	0.875	-0.059	-0.011	0.055	0.062
29	日本語を英語に訳すことに自信がある	0.860	-0.005	0.055	-0.112	-0.059
20	熟語に自信がある	0.860	-0.113	0.004	-0.046	0.019
25	英語を読んで内容を理解することに自信がある	0.806	-0.091	0.080	0.089	-0.066
24	英語を聞いて内容を理解することに自信がある	0.779	-0.023	0.213	-0.076	-0.067
26	英語を話すことに自信がある	0.771	0.168	0.109	-0.232	0.057
28	英語を日本語に訳すことに自信がある	0.655	-0.174	-0.105	0.340	0.009
23	英文法に自信がある	0.645	-0.136	-0.183	0.348	-0.106
91	総合的な英語力を自己評価してください	0.636	0.083	-0.121	-0.008	0.012
33	英語で自分の考えを書くことに自信がある	0.635	0.003	-0.021	0.129	0.056
30	英単語を暗記することに自信がある	0.586	-0.191	0.086	0.156	0.158
27	英語を書くことに自信がある	0.570	-0.010	-0.037	0.337	0.058
32	英語を声に出して読むに自信がある	0.557	-0.037	0.156	0.023	0.118
34	ネイティブの先生との対話に自信がある	0.530	0.129	0.140	-0.150	0.023
31	英文を暗記することに自信がある	0.505	-0.016	-0.062	-0.008	0.255
21	発音に自信がある	0.490	0.178	-0.102	-0.009	0.010
22	アクセントに自信がある	0.446	0.169	-0.121	0.029	0.046
73	人前で発表することは得意だ	0.378	0.140	-0.070	-0.042	0.028
83	8月、9月に実施したサマー・セッションは英語学習に役立っている	-0.162	0.740	0.041	-0.089	0.114
81	授業中のグループワークは英語学習に役立っている	0.026	0.706	-0.074	0.080	0.026
84	E-COはよく利用している	0.085	0.663	-0.160	-0.055	-0.298
82	授業で行うプレゼンテーションは英語学習に役立っている	0.013	0.613	-0.047	0.143	0.102
92	国際教養学科での英語学習に満足している	0.193	0.570	0.125	-0.152	0.215
85	E-COは英語の学習に役立っている	-0.063	0.570	-0.112	0.260	-0.106
87	留学生と積極的に交流したい	-0.182	0.518	0.186	0.145	-0.057
86	留学生と話をしたりするなど積極的に交流している	0.175	0.499	-0.156	0.014	-0.250
78	TOEIC等のワークブックや問題集は英語学習に役立っている	0.006	0.466	0.019	0.295	0.069
79	英語で行われる授業は英語学習に役立っている	0.046	0.448	0.083	0.159	0.205
90	Webクラスは英語学習に役立っている	-0.043	0.429	0.023	0.160	0.314
43	外国へ行ってみたい	-0.107	-0.086	0.765	-0.218	0.096
38	文法や語彙などの多少の誤りがあっても内容や意味を伝えようとするのが大切だ 2 英語は必要だ	-0.066	0.103	0.763	0.087	-0.205
44	外国のことに興味がある	0.067	0.116	0.724	0.057	-0.069
35	英語の学習では語彙力が最も大切だと思う	-0.018	-0.066	0.712	-0.135	0.051
36	英語の学習では文法力が最も大切だと思う	0.212	-0.165	0.710	0.000	-0.022
55	英語の学習に辞書(スマホ等の含む)を使っている	0.143	-0.086	0.643	-0.087	-0.023
56	英語の学習以外で海外に関する情報が必要だと思う	-0.084	-0.127	0.578	0.337	-0.065
45	英語の学習以外で海外に関する情報が必要だと思う	-0.182	0.015	0.484	0.177	-0.018
45	外国の人といっしょに生活をしてみたい	-0.122	0.232	0.429	-0.091	-0.005
37	英語を話したり書いたりするときは正確さが最も大切だと思う 1 英語は好きだ	0.127	0.105	0.371	-0.361	-0.010
64	わからない単語は必ず辞書(スマホ等を含む)で意味を調べる	0.237	0.126	0.344	0.053	0.248
48	わからない単語は必ず辞書(スマホ等を含む)で意味を調べる	0.061	0.070	0.308	0.297	-0.017
48	高校での英語の授業内容は身につけている	0.175	0.081	-0.228	0.787	-0.103
49	高校での英語の勉強はよく理解できた	0.214	0.123	-0.131	0.724	-0.144
47	高校での英語の勉強は大学での英語の授業に役立っている	0.146	-0.189	-0.127	0.718	-0.080
62	英文は日本語に訳して理解する	0.057	0.044	0.141	0.611	-0.030
72	英語を話したり書いたりするときは先生から添削を受けないと不安になる	-0.136	0.232	-0.030	0.488	0.078
61	単語・熟語は何度もくり返し書いて覚える	-0.090	0.207	0.140	0.435	0.096
77	単語などの小テストは英語学習に役立っている	-0.018	0.273	0.076	0.359	0.075
60	単語・熟語は何度もくり返し発音して覚える	-0.013	0.238	0.166	0.349	0.117
89	英検等学外で実施される英語の検定試験を受けようと思う	0.019	0.186	0.025	0.336	0.037
66	英語の理解は日本語訳がないと不安だ	-0.180	0.042	0.246	0.328	-0.139
65	わからない単語は前後の文脈から意味を理解しようとする	0.056	0.117	0.144	0.314	0.077
40	わからないことがあったら先生に質問する	-0.070	0.273	0.281	0.308	-0.209
4	リーディングの授業はよくわかる	0.166	0.014	-0.126	-0.184	0.925
3	リーディングの授業は好きだ	0.072	0.117	0.030	-0.137	0.814
6	リーディングの授業の予習や復習をしている	-0.074	-0.063	-0.142	-0.138	0.690
7	ライティングの授業は好きだ	0.019	-0.024	-0.118	0.223	0.602
5	リーディングの授業に積極的に参加している	-0.113	-0.004	0.069	0.125	0.578
8	ライティングの授業はよくわかる	0.159	-0.254	0.092	0.316	0.448
9	ライティングの授業に積極的に参加している	0.003	-0.052	0.119	0.332	0.414
63	英文は英語のまま理解しようとする	0.061	0.332	0.000	-0.084	0.350

表1-2：因子分析結果(2)

No.	質問項目	I	II	III	IV	V
51	英語の授業の予習をしている	0.012	0.037	-0.071	0.030	-0.054
52	英語の授業の復習をしている	0.150	0.133	-0.142	-0.030	-0.023
53	英語の授業で出された宿題・課題はやっている	-0.026	-0.011	0.255	0.162	-0.010
50	英語の家庭学習をしている	0.050	0.252	-0.181	0.027	-0.099
54	英語の授業の宿題・課題以外でも英語の勉強をやっている	0.276	0.179	0.095	-0.249	-0.025
10	ライティングの授業の予習や復習をしている	-0.016	-0.173	-0.108	0.023	0.513
11	English for Conversation (ネイティブの先生) の授業は好きだ	-0.079	0.076	-0.003	-0.038	0.119
13	English for Conversation (ネイティブの先生) の授業に積極的に参加している	-0.053	-0.069	0.038	0.117	-0.015
12	English for Conversation (ネイティブの先生) の授業はよくわかる	-0.028	0.020	-0.032	-0.084	0.038
14	English for Conversation (ネイティブの先生) の授業の予習や復習をしている	0.011	-0.066	-0.044	-0.163	0.021
15	English for Qualificationの授業は好きだ	0.117	0.098	0.094	0.007	0.032
16	English for Qualificationの授業はよくわかる	0.011	0.132	-0.040	0.078	0.045
17	English for Qualificationの授業に積極的に参加している	0.029	-0.047	0.149	0.095	0.057
18	English for Qualificationの授業の予習や復習をしている	-0.005	-0.072	0.000	-0.022	-0.005
80	授業中のペアー・ワークは英語学習に役立っている	-0.112	0.532	-0.152	0.009	0.260
67	能力別クラスは効果的だ	0.069	0.105	0.242	-0.155	-0.091
39	能力別クラスに満足している	0.120	0.002	0.201	0.007	-0.155
76	リスニング練習は英語学習に役立っている	0.310	0.336	0.167	0.095	-0.156
I	英語有能因子	-	-	-	-	-
II	英語学習有用因子	0.247	-	-	-	-
III	異文化・英語に対する興味・関心志向因子	0.168	0.282	-	-	-
IV	英語理解促進因子	0.410	0.325	0.440	-	-
V	コア科目 (RW) 志向因子	0.287	0.341	0.355	0.498	-
VI	授業外学習因子	0.364	0.145	0.283	0.462	0.312
VII	コミュニケーション志向因子	0.434	0.349	0.203	0.340	0.347
VIII	TOEIC対策志向因子	0.183	0.061	0.025	0.091	0.145
IX	能力別クラス志向因子	-0.178	-0.045	0.107	0.110	0.163

次に、特定することができた9つの因子解を構成する項目群の内容的一貫性を検証するために、クロンバックの a 係数を算出した。その結果、表2に示すとおり、各因子解の a 係数は、最も構成項目数が多い第I因子の.938から構成項目数が4と最も少ない第IX因子の.702と高い値が示された。これにより、各因子解を構成している項目群の意味的解釈を行うことは妥当であると判断し、以下のとおり各因子解のネーミングを行った。

- ①第I因子を構成する18の項目群は、英語学習全般に関わる「自信」や「得意意識」を示すものとしてまとまった解釈が可能であることから、「英語有能因子」と命名した。
- ②第II因子を構成する11の項目群は、各種学習手段や学習方法の利用や活用に関する「役立ち感」を示すものとして解釈することができることから、「英語学習有用因子」と命名した。
- ③第III因子を構成する12の項目群は、外国や異文化に対する興味や関心を示すものと、語彙や文法等の英語学習内容に対する意識を示すものとして解釈することができるため、「異文化・英語に対する興味・関心志向因子」と命名した。
- ④第IV因子を構成する12の項目群は、英語学習における理解を促進するための各種方略等に関わる項目群であると解釈することができることから、「英語理解促進因子」と命名した。
- ⑤第V因子を構成する8つの項目群は、新カリキュラムに位置づけられているコア科目 (Reading, Writing) の授業に関する肯定的な評価尺度であると解釈することができること

表1-3：因子分析結果(3)

No.	質問項目	VI	VII	VIII	IX	共通性	M	SD
19	英単語に自信がある	-0.041	-0.151	0.069	0.156	0.695	2.680	1.064
29	日本語を英語に訳すことに自信がある	0.094	-0.165	0.062	0.093	0.626	2.586	1.000
20	熟語に自信がある	-0.026	-0.004	0.058	0.220	0.668	2.438	1.041
25	英語を読んで内容を理解することに自信がある	0.077	0.009	0.001	0.105	0.728	2.969	1.079
24	英語を聞いて内容を理解することに自信がある	0.022	0.094	-0.035	0.107	0.670	2.836	1.033
26	英語を話すことに自信がある	0.060	-0.022	-0.024	-0.138	0.692	2.680	1.027
28	英語を日本語に訳すことに自信がある	0.172	-0.170	0.041	0.000	0.691	2.844	1.038
23	英文法に自信がある	0.101	0.035	0.014	-0.059	0.687	2.453	0.987
91	総合的な英語力を自己評価してください	-0.101	-0.004	0.164	-0.023	0.455	2.570	1.120
33	英語で自分の考えを書くことに自信がある	0.101	-0.017	0.010	-0.014	0.576	2.672	0.932
30	英単語を暗記することに自信がある	0.016	-0.171	-0.107	0.154	0.461	2.938	1.099
27	英語を書くことに自信がある	0.020	-0.085	0.035	-0.129	0.615	2.813	1.025
32	英語を声に出して読むに自信がある	-0.023	0.138	-0.157	-0.154	0.532	3.164	1.100
34	ネイティブの先生との対話に自信がある	-0.009	0.232	-0.020	-0.002	0.485	2.828	1.043
31	英文を暗記することに自信がある	0.034	-0.092	-0.032	-0.003	0.331	2.609	1.044
21	発音に自信がある	-0.049	0.275	-0.062	-0.260	0.594	2.469	1.129
22	アクセントに自信がある	0.036	0.218	-0.074	-0.292	0.569	2.344	1.015
73	人前で発表することは得意だ	-0.118	-0.050	0.144	0.112	0.167	2.656	1.295
83	8月、9月に実施したサマー・セッションは英語学習に役立っている	0.149	-0.069	-0.094	0.148	0.602	3.383	1.237
81	授業中のグループワークは英語学習に役立っている	-0.065	-0.011	-0.047	0.681	0.933	3.602	1.045
84	E-COはよく利用している	0.081	-0.001	0.107	0.122	0.411	2.680	1.408
82	授業で行うプレゼンテーションは英語学習に役立っている	-0.045	0.004	-0.144	0.453	0.704	3.563	1.099
92	国際教養学科での英語学習に満足している	0.045	-0.132	0.081	0.034	0.507	3.227	1.088
85	E-COは英語の学習に役立っている	0.149	0.022	0.090	0.051	0.459	3.313	1.148
87	留学生と積極的に交流したい	-0.047	0.106	0.046	-0.001	0.418	3.766	1.097
86	留学生と話をしたりするなど積極的に交流している	0.032	0.189	0.152	-0.059	0.435	2.586	1.349
78	TOEIC等のワークブックや問題集は英語学習に役立っている	0.000	0.090	0.006	0.081	0.527	3.648	0.985
79	英語で行われる授業は英語学習に役立っている	0.060	0.135	-0.145	0.171	0.658	3.750	0.939
90	Webクラスは英語学習に役立っている	-0.037	-0.214	0.101	-0.206	0.431	3.281	1.136
43	外国へ行ってみたい	0.058	0.127	0.090	0.170	0.627	4.648	0.749
38	文法や語彙などの多少の誤りがあっても内容や意味を伝えようとするのが大切だ	0.020	-0.044	0.088	0.037	0.602	4.352	0.847
2	英語は必要だ	-0.129	-0.057	0.030	0.036	0.555	4.680	0.709
44	外国のことに興味がある	0.026	0.067	0.116	0.086	0.506	4.539	0.822
35	英語の学習では語彙力が最も大切だと思う	-0.211	-0.043	0.003	0.067	0.473	4.156	0.926
36	英語の学習では文法力が最も大切だと思う	-0.126	-0.125	-0.057	0.045	0.358	3.781	0.947
55	英語の学習に辞書(スマホ等の含む)を使っている	0.232	-0.009	-0.230	-0.039	0.691	4.367	0.955
56	英語の学習以外で海外に関する情報が必要だと思う	0.097	0.062	-0.055	0.092	0.401	4.172	1.020
45	外国の人といっしょに生活をしてみたい	-0.098	0.114	0.127	0.016	0.285	3.891	1.152
37	英語を話したり書いたりするときは正確さが最も大切だと思う	0.036	-0.014	0.004	-0.012	0.160	3.281	1.101
1	英語は好きだ	-0.041	0.013	-0.116	-0.021	0.454	4.148	0.940
64	わからない単語は必ず辞書(スマホ等の含む)で意味を調べる	0.141	0.139	-0.102	0.026	0.487	4.195	0.997
48	高校での英語の授業内容は身につけている	0.048	-0.101	0.080	-0.077	0.624	3.508	1.094
49	高校での英語の勉強はよく理解できた	-0.090	0.081	0.022	-0.019	0.600	3.578	1.120
47	高校での英語の勉強は大学での英語の授業に役立っている	-0.053	0.151	0.114	-0.001	0.541	3.688	1.092
62	英文は日本語に訳して理解する	-0.066	-0.031	-0.013	0.047	0.458	3.602	0.908
72	英語を話したり書いたりするときは先生から添削を受けないと不安になる	0.073	-0.255	-0.088	0.041	0.352	3.258	1.037
61	単語・熟語は何度もくり返し書いて覚える	0.016	-0.097	-0.045	-0.094	0.373	3.555	1.142
77	単語などの小テストは英語学習に役立っている	0.006	0.105	0.014	0.184	0.472	3.750	0.922
60	単語・熟語は何度もくり返し発音して覚える	0.124	-0.201	0.195	0.011	0.461	3.570	1.092
89	英検等学外で実施される英語の検定試験を受けようと思う	0.071	0.049	-0.140	-0.133	0.287	3.656	0.959
66	英語の理解は日本語訳がないと不安だ	-0.099	-0.098	0.108	0.005	0.174	3.688	0.945
65	わからない単語は前後の文脈から意味を理解しようとする	-0.027	0.064	-0.024	-0.053	0.291	3.711	0.957
40	わからないことがあったら先生に質問する	0.143	0.052	0.113	0.007	0.418	3.758	0.894
4	リーディングの授業はよくわかる	-0.069	-0.024	-0.041	-0.041	0.710	3.500	1.122
3	リーディングの授業は好きだ	-0.154	-0.037	0.034	0.050	0.640	3.516	1.108
6	リーディングの授業の予習や復習をしている	0.435	0.027	0.034	0.061	0.646	3.539	1.026
7	ライティングの授業は好きだ	-0.144	0.256	-0.075	-0.087	0.576	3.844	0.976
5	リーディングの授業に積極的に参加している	0.111	0.046	0.240	-0.178	0.601	3.766	0.992
8	ライティングの授業はよくわかる	-0.213	0.268	-0.017	-0.043	0.583	3.883	0.927
9	ライティングの授業に積極的に参加している	0.022	0.110	0.166	-0.093	0.621	3.898	0.971
63	英文は英語のまま理解しようとする	0.132	-0.153	0.077	-0.262	0.349	3.195	1.035

表1-4：因子分析結果(4)

No.	質問項目	VI	VII	VIII	IX	共通性	M	SD
51	英語の授業の予習をしている	0.820	0.027	-0.120	0.095	0.684	3.016	1.150
52	英語の授業の復習をしている	0.705	0.031	-0.022	0.012	0.580	2.742	1.103
53	英語の授業で出された宿題・課題はやっている	0.619	-0.231	0.052	-0.044	0.572	3.867	1.089
50	英語の家庭学習をしている	0.617	0.063	-0.119	-0.082	0.465	2.352	1.039
54	英語の授業の宿題・課題以外でも英語の勉強をやっている	0.582	0.093	-0.061	-0.003	0.542	3.023	1.174
10	ライティングの授業の予習や復習をしている	0.514	0.068	0.066	0.148	0.728	3.641	0.978
11	English for Conversation (ネイティブの先生)の授業は好きだ	-0.070	0.823	-0.047	0.060	0.682	4.141	1.040
13	English for Conversation (ネイティブの先生)の授業に積極的に参加している	0.070	0.816	-0.002	0.030	0.726	4.016	1.042
12	English for Conversation (ネイティブの先生)の授業はよくわかる	-0.046	0.811	0.101	0.079	0.660	3.883	1.077
14	English for Conversation (ネイティブの先生)の授業の予習や復習をしている	0.308	0.604	0.228	0.106	0.648	3.500	1.129
15	English for Qualificationの授業は好きだ	-0.173	-0.078	0.821	-0.132	0.745	3.203	1.193
16	English for Qualificationの授業はよくわかる	-0.117	0.029	0.724	-0.072	0.598	3.039	1.219
17	English for Qualificationの授業に積極的に参加している	-0.091	0.146	0.722	0.111	0.680	3.375	1.094
18	English for Qualificationの授業の予習や復習をしている	0.304	0.163	0.572	0.068	0.563	3.234	1.140
80	授業中のペアー・ワークは英語学習に役立っている	-0.100	0.084	0.002	0.647	0.831	3.602	1.082
67	能力別クラスは効果的だ	0.110	-0.013	0.026	0.480	0.299	3.672	1.066
39	能力別クラスに満足している	0.050	0.223	-0.069	0.409	0.291	3.563	1.135
76	リスニング練習は英語学習に役立っている	0.029	0.027	0.032	0.390	0.467	3.734	0.892
I	英語有能因子							
II	英語学習有用因子							
III	異文化・英語に対する興味・関心志向因子							
IV	英語理解促進因子							
V	コア科目 (RW) 志向因子							
VI	授業外学習因子	-						
VII	コミュニケーション志向因子	0.36	-					
VIII	TOEIC対策志向因子	0.15	0.291	-				
IX	能力別クラス志向因子	0.12	-0.005	-0.082	-			

表2：各因子解のクロンバックの α 係数

因子	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
項目数	18項目	11項目	12項目	12項目	8項目	6項目	4項目	4項目	4項目
α 係数	.938	.867	.857	.840	.867	.839	.860	.837	.702

表3：9因子解の下位尺度得点間の相関関係

因子	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX
I	-								
II	.284**	-							
III	.186*	.341**	-						
IV	.446**	.538**	.476**	-					
V	.439**	.438**	.322**	.521**	-				
VI	.475**	.320**	.210*	.456**	.441**	-			
VII	.376**	.310**	.208*	.333**	.449**	.421**	-		
VIII	.299**	0.148	0.084	.251**	.359**	.228**	.447**	-	
IX	.168*	.489**	.368**	.372**	.261**	.304**	.314**	0.099	-

(**: 1%水準、*: 5%水準、両側検定)

から、「コア科目 (RW) 志向因子」と命名した。

⑥第VI因子を構成する6つの項目群は、予習や復習をはじめとした授業外学習に関わるものであると解釈することができるため、「授業外学習因子」と命名した。

⑦第VII因子を構成する4つの項目群は、新カリキュラムに位置づけられている外国人講師による

コミュニケーションの授業に関わる肯定的な評価尺度であると解釈することができることから、「コミュニケーション志向因子」と命名した。

⑧第Ⅷ因子を構成する4つの項目群は、新カリキュラムに位置づけられているTOEIC対策講座に対する肯定的な評価尺度であると解釈することができるため、「TOEIC対策志向因子」と命名した。

⑨第Ⅸ因子を構成する4つの項目群は、新カリキュラムで導入した習熟度別・能力別クラス編成に関わる肯定的な評価尺度であると考えられるため、「能力別クラス志向因子」と命名した。

因子分析により、解釈が可能な9つの因子解を特定することができたことから、各因子解を構成する項目から下位尺度となる合成変数（平均値）を算出し、以降の分析を行うこととした。なお、各下位尺度得点間の相関関係は表3に示すとおりである。表3から、第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵの各因子の下位尺度得点間においては、1%水準の相関関係が存在することが判明した。また、その相関の程度は中程度のものであることが確認できた。

因子分析により抽出することができた9因子解のうち、本研究の目的である新カリキュラムの評価を行うために用いることができる4つの因子解（第Ⅴ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ因子）を特定することができたことは、意義深いことである。

(2) 英語学習成績指標と学習者要因との因果関係の検証

カリキュラムの評価を行うとともに、今後のカリキュラム開発のために必要な知見を得るために、英語学習成績と算出した下位尺度得点とを用いて重回帰分析を行うこととした。これにより、抽出した各因子解と英語学習成績との要因間の因果関係や共変関係の有無と、その影響力の大きさや方向を確認することにより、現行のカリキュラム展開の課題や今後のカリキュラム改編及び開発に関わる重要な示唆が得られるものとする。

本分析において用いる英語学習成績の指標は、大学での日常の学習成績を代表する指標として内部成績である①GPAスコアと、より客観性を高めるための外部指標として②TOEICのテストスコアを用いることとした。なお、内部成績のGPAについては、新カリキュラムの総合的な評価を行うことができるよう、英語関連科目のみを抽出したスコアではなく、新カリキュラムで履修している全科目の平均スコアを用いることとした。

そのために、各下位尺度得点を説明変数とし、2つの成績指標をそれぞれ従属変数として強制投入法による重回帰分析を行った。

①GPAスコアによる分析結果

GPAスコアを従属変数、下位尺度得点を説明変数として実施した重回帰分析の結果を表4に示す。その結果、決定係数 R^2 は.140で、0.5%水準で有意となった。これにより、説明変数全体

表4：GPAスコアと下位尺度得点による重回帰分析の結果

因子	B	SE B	β	t	p
I 英語有能因子	-0.012	0.104	-0.011	-0.112	0.911
II 英語学習有用因子	-0.059	0.082	-0.063	-0.715	0.476
III 異文化・英語に対する興味・関心志向因子	0.012	0.103	0.010	0.120	0.904
IV 英語理解促進因子	0.082	0.091	0.090	0.904	0.368
V コア科目(RW)志向因子	-0.166	0.090	-0.176	-1.840	0.068
VI 授業外学習因子	0.333	0.093	0.357	3.577	0.000
VII コミュニケーション志向因子	0.054	0.083	0.064	0.646	0.519
VIII TOEIC対策志向因子	0.003	0.074	0.004	0.047	0.962
IX 能力別クラス志向因子	0.030	0.066	0.040	0.462	0.645

が従属変数を説明する度合いは低いものの、当てはまりの良い回帰式が導き出されたものと判断することができる。

特に、新カリキュラムの学習成績に有意なプラスの影響（.357）を及ぼしている要因が、「授業外学習因子」であることから、授業外学習、特に、家庭学習の時間を十分に確保させるための教授・学習方略の在り方を検討し、実施することが喫緊の課題であることが窺える。

また、有意ではないものの、10%レベルでの有意傾向が窺える要因として、「コア科目（RW）志向因子」がある。この項目は、新カリキュラムの特色の一つである科目群に対する評価指標として用いることができるものである。決定係数は小さい（ $R^2 = .176$ ）ものの、標準化係数がマイナスの値となっている。

このねじれ現象が何に起因しているのかということを追究することは、カリキュラムの改編や開発において重要な示唆を得ることができるものと考ええる。

②TOEICスコアによる分析結果

外部指標として用いるTOEICスコアを従属変数、下位尺度得点を説明変数として実施した重回帰分析の結果を表5に示す。

表5：TOEICスコアと下位尺度得点による重回帰分析の結果

因子	B	SE B	β	t	p
I 英語有能因子	43.139	12.250	0.339	3.522	0.001
II 英語学習有用因子	-16.746	12.464	-0.137	-1.344	0.182
III 異文化・英語に対する興味・関心志向因子	13.409	15.074	0.083	0.890	0.375
IV 英語理解促進因子	5.733	16.596	0.039	0.345	0.730
V コア科目(RW)志向因子	-37.573	13.107	-0.306	-2.867	0.005
VI 授業外学習因子	6.173	11.568	0.054	0.534	0.595
VII コミュニケーション志向因子	6.581	9.923	0.067	0.663	0.508
VIII TOEIC対策志向因子	-3.402	8.785	-0.036	-0.387	0.699
IX 能力別クラス志向因子	34.441	11.666	0.283	2.952	0.004

この結果、決定係数 R^2 は.212で、0.1%水準で有意となった。これにより、説明変数全体が従属変数を説明する度合いは全科目を含むGPAの結果と比較すると1.5倍程度高くなってはいるものの、低いレベルに止まっている。しかし、回帰式の当てはまりの良さは十分高いことが判明した。

英語学習成果の指標として使用したTOEICスコアによる分析から、3つの因子との有意な因果関係が存在することが明らかとなった。TOEICスコアに対する影響力が最も大きくなっているのが「英語有能因子」で、 R^2 は.339（1%水準で有意）と一定レベル以上のプラスの影響を及ぼしていることが判明した。次に影響力のある因子は、「コア科目（RW）志向因子」で、 R^2 は.306（1%水準で有意）であることが分かった。しかし、GPAを用いた分析結と同様に、決定係数はネガティブを示していることが判明した。3つ目の要因として、「能力別クラス志向因子」が、他の2因子よりも R^2 は.283（1%水準で有意）と、その影響の度合いが若干低くなってはいるものの、TOEICスコアとの間に、有意なプラス方向への因果関係があることが確認できた。

特に、新カリキュラムの展開に関わるコア科目と能力別クラス編成という2つの要因との因果関係が確認できたことと、コア科目に関する因子がTOEICスコアとネガティブな関係にあることは、今後のカリキュラム編成へ向けて考察する必要がある。

③第V因子「コア科目（RW）志向因子」の特性

学習成績を従属変数、下位尺度得点を説明変数として実施した重回帰分析の結果、学習成績に有意でネガティブな影響を及ぼしている要因として第V因子「コア科目（RW）志向因子」を特定した。第V因子は、新カリキュラムのコア科目群に対するポジティブな志向性を表すものとして定義することができた因子である。従って、英語学習成績をはじめとする学習成果にはプラス方向の因果関係が期待される因子である。しかし、重回帰分析の結果、英語学習成績に有意なマイナス方向の因果関係が認められた。また、その影響の大きさは $R^2 = .306$ と、小さなものではないことが判明した。

そこで、第V因子の特性を追求するため、調査対象者を学習成績に基づき3つのグループに分け、より精緻な分析を行うこととした。

i) TOEICテストスコアによるGMP分析の結果

TOEICのテストスコアのヒストグラムから、調査対象者をG群（成績上位グループ）、M群（成績中位グループ）、P群（成績下位グループ）の3つにグループ化し、グループ毎に重回帰分析を実施し、第V因子とTOEICスコアとの因果関係を探った。その結果、第V因子との5%水準で有意な弱い（ $R^2 = .333$ ）因果関係の存在が確認できたのは、M群（成績中位グループ）のみであった（表6）。

表6：TOEICスコアM群（成績中位グループ）の重回帰分析結果

因子	B	SE B	β	t	p
I 英語有能因子	-0.497	6.272	-0.013	-0.079	0.937
II 英語学習有用因子	-2.818	4.526	-0.084	-0.623	0.536
III 異文化・英語に対する興味・関心志向因子	12.351	5.155	0.328	2.396	0.020
IV 英語理解促進因子	-0.390	5.000	-0.013	-0.078	0.938
V コア科目(RW)志向因子	-10.747	5.202	-0.333	-2.066	0.043
VI 授業外学習因子	4.805	4.878	0.156	0.985	0.329
VII コミュニケーション志向因子	3.535	4.358	0.117	0.811	0.420
VIII TOEIC対策志向因子	2.136	4.025	0.070	0.531	0.598
IX 能力別クラス志向因子	-2.904	3.658	-0.107	-0.794	0.430

ii) GPAスコアによるGMP分析の結果

次に、学習全般の成果指標となるGPAスコアのヒストグラムに基づき、調査対象集団を3つのグループ（G群：成績上位群、M群：成績中位群、P群：成績下位群）に分類した。この分類に基づき、重回帰分析を実施した結果、第V因子との有意な因果関係が認められたのは、M群（成績中位群）のみであった。

M群においては、第I因子「英語有能因子」と第III因子「異文化・英語に対する興味・関心志向因子」が、学習成績に有意なプラス方向の影響を及ぼしていることが判明した。しかし、第V因子は、TOEICのテストスコアを指標として行った分析結果同様に、学習成績に対し、有意でネガティブな因果関係を有していることが確認できた（表7）。

表7：GPAスコアM群（成績中位グループ）の重回帰分析結果

因子	B	SE B	β	t	p
I 英語有能因子	53.944	17.022	0.474	3.169	0.002
II 英語学習有用因子	-2.758	12.522	-0.027	-0.220	0.826
III 異文化・英語に対する興味・関心志向因子	40.913	17.461	0.316	2.343	0.023
IV 英語理解促進因子	-11.237	15.041	-0.107	-0.747	0.458
V コア科目(RW)志向因子	-45.666	15.090	-0.460	-3.026	0.004
VI 授業外学習因子	13.510	18.136	0.127	0.745	0.460
VII コミュニケーション志向因子	8.247	15.441	0.084	0.534	0.595
VIII TOEIC対策志向因子	-8.190	11.523	-0.091	-0.711	0.480
IX 能力別クラス志向因子	-0.442	10.125	-0.006	-0.044	0.965

また、有意とはならなかったものの、G群及びP群において、第V因子が学習成績へ及ぼす影響の方向を確認してみると、TOEICスコアで分類したG群が.011という極めて小さなレベルでネガティブな数値が示された例を除き、すべてポジティブな数値として示されている。

これらの分析結果から、M群（成績中位群）のみが第V因子について特異な特性を有している可能性があることが推察された。

次に、第V因子の特性を探究するために、第V因子得点と学習成績の因果関係を分析した。そのため、第V因子を構成する質問項目から算出した下位尺度得点のヒストグラムに基づき、

調査対象集団を3つのグループ（G群：成績上位群、M群：成績中位群、P群：成績下位群）に分類した。なお、第V因子得点群間のTOEICスコア及びGPAスコアの平均値の差を検定したが、どの組み合わせにおいても有意差は確認できなかった。

iii) 第V因子得点と学習成績（TOEIC）の因果関係

TOEICスコアを従属変数とした重回帰分析の結果、有意な回帰式を得ることができたのはP群（ $p = .004$ ，1%水準で有意）を対象とした分析のみであったため、G群とM群の結果考察については参考程度にとどめる。

5%水準で有意な因果関係を示す回帰式を得ることができたのは、第V因子「コア科目（RW）志向因子」に対し低い評価を行ったグループである。P群では、第I、II、VII、IX因子がTOEICの成績にプラス方向で弱い因果関係（ $.343 < \beta < .376$ ）があることが確認できた。これらの因子に共通している特性は、コミュニケーション活動を中心とした言語学習活動に対する肯定的な態度や志向性であることから、新カリキュラムで実施しているコア科目（RW）の学習内容や学習方法が従来の「読解」学習や「和文英訳」演習に近い形態で展開されている可能性が、また、そのような学習形態や学習内容に対し、受講生が興味・関心を高めることができている可能性があることが示唆されていると考えられる（表8）。

表8：第V因子P群のTOEICスコアと因子下位得点との重回帰分析の結果

因子	B	SEB	β	t	p
I 英語有能因子	46.149	18.496	0.374	2.495	0.018
II 英語学習有用因子	39.526	18.075	0.343	2.187	0.036
III 異文化・英語に対する興味・関心志向因子	24.047	16.407	0.216	1.466	0.153
IV 英語理解促進因子	1.880	21.584	0.014	0.087	0.931
V コア科目（RW）志向因子	48.072	30.723	-0.285	-1.565	0.128
VI 授業外学習因子	14.486	19.731	0.131	0.734	0.468
VII コミュニケーション志向因子	29.002	13.412	0.365	2.162	0.038
VIII TOEIC対策志向因子	-32.149	18.401	-0.285	-1.747	0.091
IX 能力別クラス志向因子	38.683	16.112	0.376	2.401	0.023

また、G群においては、TOEICスコアと授業外学習に対する親和性を示す第VI因子との間に5%水準で有意なプラス方向への因果関係が存在することが確認できた。G群は従来型の英語学習方略に高い親和性を示しているグループであることから判断し、授業外学習と英語学習成績との因果関係が成立することは合理的であると判断することができる。

次に、M群においては、TOEICスコアとコア科目に対する志向性を示す第V因子との間に、5%水準で有意なマイナス方向への弱い因果関係（ $\beta = -.292$ ）が存在することが確認できた。このことから、M群においては、従来型の英語学習に対する親和性は英語学習成績にはプラスに働いていない可能性があることが判明した。

iv) 第V因子得点と学習成績（GPA）の因果関係

GPAスコアを従属変数とした重回帰分析の結果、どの群とも5%水準以下の有意な回帰式を得ることができなかったが、G群は $p = .068$ と10%未満の有意水準を示し、有意傾向があるものとして、一定の考察を加えることとした。

G群では、全般的な学習成績の総括指標となるGPAスコアと授業外学習に対する志向性を示す第VI因子との間に、1%水準で中程度以上（ $\beta = .610$ ）の因果関係が存在することが判明した。すなわち、従来型の英語学習に対する親和性が高い学習者で、授業外学習に対する志向性のある学習者は大学での全般的な科目の履修成績が有意に高くなる可能性があることが示されているものと考えられる。

6. 結果と考察のまとめ

(1) 授業外学習に関する示唆

国際教養学科初年次生を対象とした英語学習実態調査の分析から、新カリキュラムを評価するための有意な9つの因子解を抽出することができた。また、これらの因子解は、今後追手門学院大学初年次基礎英語教育のカリキュラムを構築する上でも重要な示唆となることが期待される。

特に学習成績と有意なプラス方向への因果関係を確認することができた「授業外学習」に関わる要因の存在は、授業デザインやカリキュラム開発を行う上で、単なる「課題」の設定だけではなく、具体的なタスクの設定・遂行・評価や、個人、ペアー、グループ等の多様な授業外学習形態の展開、さらには、授業内容や授業内活動との有機的リンクや意味づけといったものが問われてくる。

(2) 新カリキュラムの評価

2017年度から導入された国際教養学科の新カリキュラムにおいて、そのコア科目として位置づけられているReading、Writing、English for Qualification、及び、外国人講師によるEnglish for Conversationの科目群は、それぞれ固有の因子解として特定することができた。

また、新カリキュラムの導入に合わせ実施している能力別（習熟度別）クラス編成に関わる固有の因子解も抽出することができた。

このことから、各科目の担当教員は、各科目の特性が、受講生に一定レベル理解される程度、授業内容やその展開方法、及び、評価方法を科目特性に応じ工夫していることが窺える。しかし、重回帰分析の結果から、TOEIC対策として位置づけているEnglish for Qualificationが、TOEICのテストスコアに有意に寄与していない可能性があること等が窺えた。また、ReadingやWritingのコア科目に対する志向因子は、TOEICスコアとネガティブで有意な因果関係があることが判明した。

このことから、ReadingやWritingの授業内容や授業展開方法等と、外部指標として用いた

TOEIC形式のテスト指標とのマッチングが十分図られていない可能性があることが窺えた。

7. 課題と今後の展望

(1) 課題

本研究で用いた英語学習実態調査の質問紙は、英語学習に特化したものであり、国際教養学科という学科特性から、1年次生が履修している英語関連科目の占有率が70%を占めてはいるものの、総合的成績指標であるGPAスコア（図2）を成績指標の一つとして用い、データ分析を行い考察することには問題が残されている。なお、調査対象者の直接的な英語運用能力指標としてTOEICのテストスコア（図3）を用いた分析・考察においては、一定レベル以上の妥当性や信頼性が得られているものとする。

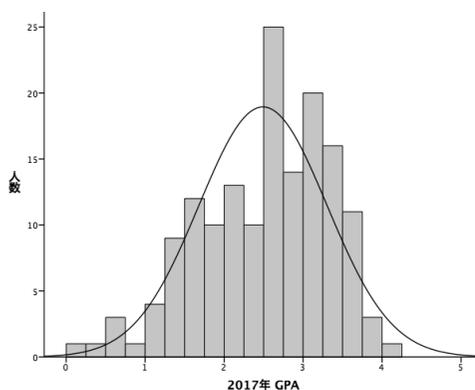


図2：2017年度入学生の2017年度累積GPA

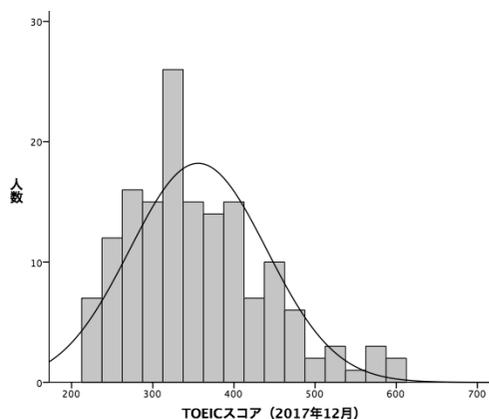


図3：2017年度入学生のTOEICスコア（12月）

(2) 今後の展望

新カリキュラムのReadingとWritingの授業特性に関わる第V因子が、英語学習成績指標として用いたTOEICスコアと、マイナスの有意な因果関係を示していることが確認できたことは興味深い。本研究ではその構造を一部明らかにすることを試みたが、今後その原因を追及することは、当該科目の授業改善や担当教員のFD研修等において有益な示唆が得られるものとする。

学習者特性にもよるが、accuracy（正確さ）やusage（用法）を求める「英語読解」型授業や「和文英訳」型授業に対する親和性の高い学習者と、fluency（流暢さ）やuse（活用）を求めるコミュニケーション活動を中心とした集団の中で学び合う「ソーシャル・ラーニング」型に対する親和性の高い学習者等の多様な特性、能力、経験等の学習者要因に幅広く対応し、カリキュラムポリシーの実現を図ることができる教授・学習方略を研究開発することが期待される。

参考文献

Ellis, R. (1985) *Understanding Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.

Ellis, R. (1997) *SLA Research and Language Teaching*. Oxford: Oxford University Press.

Nunan, D. (1992) *Research Methods in Language Learning*. Cambridge: Cambridge University Press.

Oxford, R. L. (1990) *Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*. New York: Newbury House.

石橋 嘉一、三輪眞木子 (2014) 「英語専攻の日本人大学生における授業外英語学習の実態調査: 英語学習内容のカテゴリ分析と言語熟達度との関係」、『日本教育工学会論文誌』、38巻、1号、pp. 39-48.

松宮新吾 (2008) 「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールにおける学習因子の形成と変容に関する調査研究」、『関西外国語大学研究論集』、第88号、pp. 73-92.

(資料 1: 英語学習実態調査質問紙)

※実際の質問紙は反転項目等のチェック項目を含んでいる。

英語学習に関するアンケート調査

1. アンケート調査の目的

このアンケートは、皆さんの英語学習に対する意識や実態を把握し、皆さんの英語学習や英語の授業方法等を改善することを目的として実施する調査です。

なお、このアンケート調査で得られた情報は、授業改善等の教育目的においてのみ利用し、個人情報保護に関する本学のガイドラインや法令・条例等に基づき適正に管理・運用されます。

2. 回答の方法

(1) 質問の内容をよく読み、あてはまるものを選択し、その数字に○を付けてください。

(例 1) Reading の授業は理解できている。

5	4	3	2	1
そう思う	少し そう 思う	どちらでもない	あまり そう 思わない	そう 思わない

(2) 記述式の回答は、記述回答欄にいてねいに記入してください。

(例 2) 一日平均の授業外学習時間を記入してください。

(2 時間 30 分)

(例 3) 海外へ行ったことがありますか。

※「ある」と回答した場合は、渡航先、渡航時期、期間、目的について最も長かったものを記入してください。

2	1
ある	なし

【渡航先国】 オーストラリア、ケアンズ

【渡航時期】 高校 2 年生

【渡航期間】 5 日間

【渡航目的】 修学旅行

所属名	学籍番号	名 前	性別
国際教養学科			男・女

1. 英語は好きだ。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

2. 英語は必要だ。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

3. リーディング(Reading)の授業は好きだ。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

4. リーディング(Reading)の授業はよくわかる。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

5. リーディング(Reading)の授業に積極的に参加している。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

6. リーディング(Reading)の授業の予習や復習をしている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

7. ライティング(Writing)の授業は好きだ。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

8. ライティング(Writing)の授業はよくわかる。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

9. ライティング(Writing)の授業に積極的に参加している。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

10. ライティング (Writing) の授業の予習や復習をしている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

11. English for Conversation (ネイティブの先生) の授業は好きだ。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

12. English for Conversation (ネイティブの先生) の授業はよくわかる。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

13. English for Conversation (ネイティブの先生) の授業に積極的に参加している。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

14. English for Conversation (ネイティブの先生) の授業の予習や復習をしている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

15. English for Qualification の授業は好きだ。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

16. English for Qualification の授業はよくわかる。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

17. English for Qualification の授業に積極的に参加している。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

18. English for Qualification の授業の予習や復習をしている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

19. 英単語に自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

20. 熟語に自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

21. 発音に自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

22. アクセントに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

23. 英文法に自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

24. 英語を聞いて内容を理解することに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

25. 英語を読んで内容を理解することに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

26. 英語を話すことに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

27. 英語を書くことに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

28. 英語を日本語に訳すことに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

29. 日本語を英語に訳すことに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

30. 英単語を暗記することに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

31. 英文を暗記することに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

32. 英語を声に出して読むに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

33. 英語で自分の考えを書くことに自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

34. ネイティブの先生との対話に自信がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

35. 英語の学習では語彙力が最も大切だと思う。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

36. 英語の学習では文法力が最も大切だと思う。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

37. 英語を話したり書いたりするときは正確さが最も大切だと思う。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

38. 文法や語彙などの多少の誤りがあっても、内容や意味を伝えようとするの方が大切だ。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

39. わからないことがあったら先生に質問する。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

40. わからないことがあったら友だちに質問する。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

41. わからないことがあってもそのままにしておく。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

42. 外国へ行ってみたい。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

43. 外国のことに興味がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

※ 具体的な内容()

44. 外国の人といっしょに生活してみたい。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

45. 海外へ行ったことがある。

※「ある」と回答した場合は、渡航先、渡航時期、期間、目的について最も長かったものを記入してください。

2 ある	1 なし	【渡航先国】 ()
		【渡航時期】 ()
		【渡航期間】 ()
		【渡航目的】 ()

46. 高校での英語の勉強は大学での英語の授業に役立っている。

5 そう思う	4 少しそう思う	3 どちらでもない	2 あまりそう思わない	1 そう思わない
-----------	-------------	--------------	----------------	-------------

47. 高校での英語の授業内容は身につけている。

5 そう思う	4 少しそう思う	3 どちらでもない	2 あまりそう思わない	1 そう思わない
-----------	-------------	--------------	----------------	-------------

48. 高校での英語の勉強はよく理解できた。

5 そう思う	4 少しそう思う	3 どちらでもない	2 あまりそう思わない	1 そう思わない
-----------	-------------	--------------	----------------	-------------

49. 英語の家庭学習は一日平均どのくらいしていますか。

5 1時間 30分以上	4 1時間 30分～1時間	3 1時間～30分	2 30分未満	1 勉強しない
----------------	------------------	--------------	------------	------------

50. 英語の授業の予習をしていますか。

5 そう思う	4 少しそう思う	3 どちらでもない	2 あまりそう思わない	1 そう思わない
-----------	-------------	--------------	----------------	-------------

51. 英語の授業の復習をしていますか。

5 そう思う	4 少しそう思う	3 どちらでもない	2 あまりそう思わない	1 そう思わない
-----------	-------------	--------------	----------------	-------------

52. 英語の授業で出された宿題・課題はやっている。

5 そう思う	4 少しそう思う	3 どちらでもない	2 あまりそう思わない	1 そう思わない
-----------	-------------	--------------	----------------	-------------

53. 英語の授業の宿題・課題以外でも英語の勉強をやっている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

54. 英語の学習に辞書(スマホ等の含む)を使っていますか。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

55. 英語の学習以外で、海外に関する情報が必要だと思う。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

56. 将来の目標がある。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

57. 単語・熟語は何度もくり返し発音して覚える。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

58. 単語・熟語は何度もくり返し書いて覚える。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

59. 英文は日本語に訳して理解する。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

60. 英文は英語のまま理解しようとする。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

61. わからない単語は必ず辞書(スマホ等の含む)で意味を調べる。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

62. わからない単語は前後の文脈から意味を理解しようとする。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

63. 英語の理解は日本語訳がないと不安だ。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

64. 能力別クラスは効果的だ。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

65. 能力別クラスに満足している。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

66. 英語の学習方法は自分なりに工夫している。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

67. 計画的に英語の学習をしている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

68. 英語の授業ではノートをとっている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

69. 英語を話したり書いたりするときには、先生から添削を受けないと不安になる。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

70. 人前で発表することは得意だ。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

71. 一番身につけたい英語の能力は何ですか。

4	3	2	1
聞く能力	話す能力	読む能力	書く能力

72. 大学以外(英会話スクール等)で 英語を勉強している。

1	2	【具体的な内容を記入してください】
はい	いいえ	

73. リスニング練習は英語学習に役立っている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

74. 単語などの小テストは英語学習に役立っている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

75. TOEIC 等のワークブックや問題集は英語学習に役立っている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

76. 英語で行われる授業は英語学習に役立っている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

77. ペアールワークは英語学習に役立っている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

78. グループワークは英語学習に役立っている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

79. プレゼンテーションは英語学習に役立っている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

80. サマー・セッションは英語学習に役立っている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

81. E-CO は英語学習に役立っている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

82. Web クラスは英語学習に役立っている。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

83. 総合的な英語力を自己評価してください。

5	4	3	2	1
高い	少し高い	どちらでもない	少し低い	低い

84. 国際教養学科での英語学習に満足している。

5	4	3	2	1
そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない

【その理由を具体的に記入してください】

ご協力ありがとうございました。

